

令和6年度英語教育に関する学校評価(児童・保護者・学校関係者)の結果

英語特例校として、5・6年生で年間80時間、3・4年生で年間45時間、1・2年生で年間10(3~6年は一部モジュール学習の時間を含む)取り組んできた英語教育に関する学校評価をまとめました。

【児童評価】

設問 英語に興味があり、もっと英語を勉強したいと思いますか。

	R6 2学期末	R6 1学期末	R5 2学期末	R5 1学期末	R4 2学期末	R4 1学期末
3~6年	73.9%	77.4%	72.8%	81.8%	74.7%	80.2%
1・2年	87.4%	80.9%	85.8%	90.3%	89.0%	80.2%
全 校	78.0%	78.5%	77.2%	84.4%	79.6%	80.2%

※数値は、「そうである」、「どちらかといえばそうである」と回答した割合

【保護者評価】

設問 子どもは、英語に興味を持ち、英語の学習を楽しみにしている。

	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
全保護者	71.1%	66.3%	78.3%	71.4%

※数値は、「よくあてはまる」、「少しあてはまる」と回答した割合

【学校関係者評価】

設問 学校は、英語教育に特に力を入れ、児童・生徒のコミュニケーション能力の育成や国際理解教育の推進に積極的に取り組んでいる。

	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
学校関係者	3.6点	3.5点	3.3点	3.4点

※数値は、「よくできている」を4点、「できている」を3点、「あまりできていない」を2点、「できていない」を1点として計算した点数になります。

◇ 専科教員と ALT により、子どもたちが楽しみながら英語に親しむことができる授業づくりを目指しています。授業の中で、英語に楽しくふれる活動を仕組み、子どもの英語への関心意欲を高めるとともに、デジタル教科書を活用し、発音を自ら確認したり使いたい表現を調べたりしながら、読む・聞く・書く力の基礎が養われるような英語学習に取り組んでいきたいと考えます。

また、モジュール学習では、日常生活で使える簡単なフレーズを動画で紹介しており、休み時間には、子どもたちが専科教員や ALT と楽しく会話をする姿が見られます。授業だけでなく学校生活の中で自然に英語を聞いたり使ったりする機会をより多く設けることで、子どもたちの英語に対する興味・関心・意欲を高めていきたいと思います。